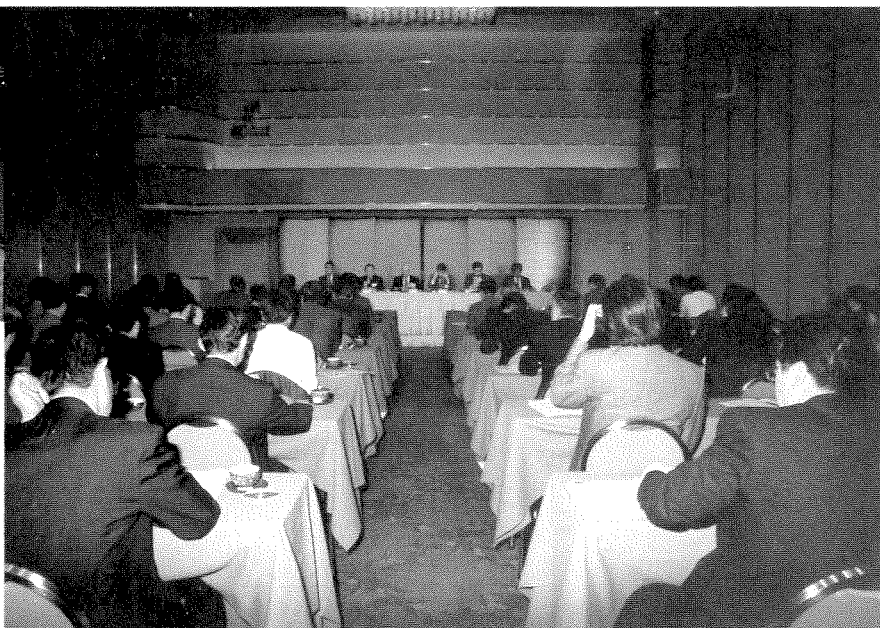


社団法人音楽電子事業協会 平成9年度第1回・通常総会 および懇親会が開催されました！



石川則夫・通商産業省機械情報産業局
情報処理システム開発課
課長補佐
振角秀行・通商産業省機械情報産業局
情報処理システム開発課
課長
保志忠彦・副会長
日吉昭夫・会長
梯郁太郎・副会長
飯島澄雄・顧問兼護

5月12日午後4時10分よりエドモンドホテル「悠久の間」に於て、AMEI 会員代表者他約70名が集まり平成9年度第1回通常総会が開催され、平成8年度事業報告及び決算報告の審議、平成9年度事業計画及び事業予算の審議、新理事選任、等が実施され承認されました。

引き続き、午後5時30分より、AMEI 会員並びに関係各位約100名の出席を得、懇親会が同ホテルにて賑やか、かつ和やかな雰囲気の中で実施され、午後7時頃まで交流が続きました。

CONTENTS

総 会	1	平成9年1月MMAとのプリミーティング	7
平成8年度事業報告	2	平成9年1月MMA 総会	8
平成8年度事業報告	3	山崎教授のお話し（AMEI活動について）	9
平成9年度事業計画	4	マルチメディア教育テキスト紹介（AMEI 版CD-ROM）	10
「MIDI WORLD '97」開催概要	5	新事務所の紹介（写真・地図・レイアウト）	11
平成8年第2回理事会の概要（議事次第）	6	AMEI 会員名簿	12

平成 8 年度の事業報告

(平成 8 年 4 月 1 日から平成 9 年 3 月 31 日まで)

ハードウェア委員会

(安全規格部会)

- ①音楽電子機器の安全性の自主依頼試験を 6 件実施
実施済 3 件（適合 2、不適合 1）、出検中 3 件
- ②安全規格関連の規格調査と変動状況把握及び会員への情報提供
UL813、469コードの変更、UL6500の動向、SEMKO情報開設、第三者認定制度の動向、SASOの適合証明、EN規格の解釈、CCA決定事項、IEC-Jの動向
- ③EMC（電波障害）関連の状況調査と情報提供
FCC認可制度改正、オーストラリアEMCのフレームワーク、国内電源高調波抑制について

- ④PL事例集WGを開催、解りやすい事例に基づく参考書を策定開始。

(環境問題研究部会)

- ①製品アセスメントマニュアルの見直し、及びオーストラリア向け木製品の薫蒸処理要求、アメリカ向け梱包用木材の防虫処理要求、ドイツ向け木材のホルマリン対策、ドイツのフォルムアルデヒド規制クリーンジャパンセンターへの入会等を研究討議した。
- ②環境問題に関するセミナーを実施（4回）
講師として、松下電器、三菱電機、JACO、ソニーの権威者にお願ひし大変好評であった。

電子音楽標準化方針委員会

通産省、工業技術院、大学の方々にも参加して頂き、委員長を早稲田大学山崎教授にお願ひしスタートした。

- ①電子音楽分野における標準化方針の検討調査
- ②JIS原案の作成調査
MIDI規格を元にして、関連する公的規格、民間規格との整理を含め、国際提案を視野にいたしたJIS原案を検討

- ③原案の 1 部は作成された、引き続き 9 年度も継続
*概要部分のJIS原案については作成終了
*詳解部分についてはJIS素案が作成され、引き続き原案作成に向けて 9 年度も実施
*JIS原案とMIDI 1.0 規格書の関連規格についてMMAとの合意成立

MIDI規格委員会

- ①MIDIソフト規格の立案、標準化
*GML-2規格案をまとめ、MMAとの調整もほぼ合意に達し、平成 9 年度前半で細部仕様の決定、DLSとの整合、規格書を作成の予定（7 件のRPをMMAに提案、受諾される）

- *歌詞付きSMFの規格化、AMEI内可決
MMA総会に提案、2 月にはMMA投票可決の予定
- *DLSの MMAよりの提案（マイクロソフト社のOSに搭載予定）の検討開始
- ②次世代対応としてのIEEE1394およびUSBに関する研究の開始
セミナーの実施、MMAとの情報交換を実施

著作権委員会

(カラオケ・伝送系部会)

- ①「業務用通信カラオケによる音楽著作物の利用に関して」JASRACとの間で暫定合意をした。（平成 7 年 9 月末迄について）

背景

- * JASRACとの間には通信型メディアの著作権処理のあり方に関して認識に大きな隔たりが依然として存在する。
- * しかし、作曲家、作詞家等の権利者に長期間に渡って精算未了という迷惑をかける事を憂慮。
- * JASRACの新体制を信頼し、新体制の確立が「将来の本格的マルチメディア時代における通信型メディアの権利処理のあり方について」の合理的案協議妥結への早道と考え、早期協議妥結を期待して暫定合意した。

- ②平成 7 年 10 月以降に関しては、JASRACと現在協議続行中
* AMEIの主張：著作権使用料算定基準として「音楽情報料収入に適正な料率をかける定率制の導入」
- * 著作権の所轄官庁文化庁著作権課へ、また AMEI所轄の通産省へ実態報告と上申書を提出、指導を仰ぎながら進行中
- ③上記につき、各種関連団体と「通信メディアの音楽著作権使用料について」情報意見交換会を実施
* 電子ネットワーク協議会、テレコムサービス協会、レコード協会等

(プロテクト部会)

- ①ワーキンググループ活動を組織し、MIDI音楽情報のコピープロテクト方式の技術検討を実施
認証方式を部会提言とし、具体的手法の電子指紋、電子すかしの技術研究に入った。
- ②米国MMAにも参加を呼び掛けた。

ソフトウェア委員会

- ①例会を10回開催、最新のデジタル技術及び話題のデジタル新規事業を紹介するセミナーを9回開催、多くの会員が受講した。
- ②マルチメディア研究部会が
 - *「ホームページに関する」4回のセミナーを実施
 - *ソフトメーカー側として「MIDI規格GML-2」への提案を行った。
- ③マーケティング部会が「MIDI WORLD 96」会期中 小売店（楽器、デジタル、コンピュータ）を対象に「MIDIセミナー」を実施、130名の参加者を得、好評であった。

業務委員会

- ①「MIDI WORLD 96」（ここまで来たぞ！音楽とデジタル）を池袋サンシャインシティにて、平成8年10月25日26日27日の3日間 盛会好評裡に実施（会報にて詳細報告済み）
 - *日本経済新聞社と共催、通産省後援を得
 - *37社参加、入場者17250人
- ②「MIDI WORLD 97」を計画、
 - *「楽器フェア」と併催の形で
 - *10月23日～26日まで池袋サンシャインシティ（1568m²）にて実施予定
 - *後援：通産省（予定）、日本経済新聞社、日本楽器フェア協会

マルチメディア人材育成委員会

- ①マルチメディア人材育成のプログラム・カリキュラム・教材を開発、事業化する事の調査研究が当研究委員会の使命であったが、
 - *AMEI独自で開発・事業化はせず、外部組織との協力関係の中でマルチメディア人材育成に取り組む事がベターとの結論になった。
 - *マルチメディア人材育成研究委員会は発展的解消し、新たに「マルチメディア推進委員会」を設置し、マルチメディア推進の中で人材育成に取り組む事の提案をした。
- ②マルチメディア人材育成の下記協会等の進展状況をセミナーの形で会員に紹介
アップルマルチメディアフォーラム、CGアーツ協会、等
- ③MMCAの認定試験プログラムの音楽・音響部門をAMEIとしてバックアップ（内容面実施面）、会員に受験の案内をした。

デジタル・レコーディング研究委員会

- ①「デジタル・レコーディングに関わる各種機器間の接続インターフェイスについての問題点の改善とユーザー知識の向上」について具体的展開法を検討、協議した。（7回の委員会）
- ②6回／年のデジタル・レコーディングの基礎知識セミナーを実施
- ③平成9年度にはハンドブックを編纂する。

総務委員会・統計資料作成研究委員会

- ①統計資料の作成を検討する部会を総務委員会の中に組織し、電子楽器、コンピュータ、通信カラオケ、ソフトの各業界より委員を任命、12月に検討会を持った。
- ②対象商品、分類について検討、引き続き平成9年に継続研究する事になった。

広報委員会

- ①会報を平成8年5月、9月、平成9年1月 計3回発行
- ②AMEIホームページを平成8年9月開設
- ③AMEI入会案内を平成8年9月発行

海外視察団の実施

MIDI規格委員会主催にて

- ①米国NAMM視察団の実施（1/15～1/20 16名参加）
NAMMショー 音楽電子事業の視察、情報収集
- ②米国MMA総会出席及びプレミーティング実施（視察団）
MMAとの協議、情報交換

平成9年度の事業計画

(平成9年4月1日より平成10年3月31日まで)

1 音楽電子事業に関する生産、流通、商品等の調査研究

- ◆音楽電子機器の生産及び流通の統計資料作成の研究を行う。
- ◆音楽電子機器の商品に係る調査研究
 - 安全性に関する自主依頼試験結果の調査分析を行う。
 - 音楽電子ソフトの知的財産権のあり方についての検討を行う。
 - 音楽電子機器のMIDI関連のコピープロテクトの検討を行ない、具体的に認証技術を研究する。
- ◆音楽電子機器の技術の調査研究
 - 環境保全及び製造物責任に関する技術的課題の調査研究を行う。

2 音楽電子事業に関する情報の収集及び提供

- ◆音楽電子機器に関する市場開発、新技術、安全規格等に関する内外の情報を収集し、提供する。
 - 安全規格に関する世界各国の情報収集と研究を行う。
 - 電波障害に関する世界各国の情報収集と研究を行う。

3 音楽電子事業に関する規格の立案及び標準化の推進

- ◆音楽電子機器に係る規格についての日本工業標準規格(JIS)の制定への協力
 - MIDI規格のJIS化に伴う原案の作成について、工業技術院、(財)日本規格協会に協力する。
- ◆音楽電子機器に係る規格を国際協調し立案、検討、制定
 - 米国MMAと連携協調して、MIDI規格の推進、次世代対応のMIDI規格の立案及び検討を行う。

4 音楽電子事業に関する普及及び啓発

- ◆会報の発行
 - 本会の活動、関係情報を掲載した会報を年3回発行する。
- ◆AMEIホームページの管理、運営
 - 本会の活動案内、関係情報等を掲載したインターネット上のホームページを開設し、内容改訂を年3回実施する。
- ◆各種セミナー、フェア及び各種委員会の開催
 - [MIDI WORLD '97] (池袋サンシャインシティ、平成9年10月)及びMIDIセミナーを開催する。
 - ソフトウェア委員会マーケティング部会・マルチメディア研究部会、業務委員会、マルチメディア推進委員会、デジタルレコーディング研究委員会、等を開催する。

5 音楽電子事業に関する内外関係機関等との交流及び協力

- ◆音楽電子事業に係る企業の経営改善及び技術向上のため、音楽電子事業に関連の下記国内関係機関の各種研究会に参加し、情報交換、交流及び協力を行う。
 - (財)マルチメディアコンテンツ振興協会、マルチメディア制作連絡者協議会、(社)日本電子機械工業会、(社)日本電気協会、(財)クリーン・ジャパセンター、電気製品認証協議会、家電製品PLセンター、電子ネットワーク協議会、(財)通商産業調査会、等
- ◆音楽電子事業に係る海外関係機関との交流を行う。
 - 米国NAMMショー(平成10年1月予定)、米国コムデックス(平成9年9月予定)に視察団を派遣し、音楽電子事業に係る各種機関と情報交換及び交流を行う。

「MIDI WORLD 97」開催

マルチメディアの急速な進展は日進月歩で、ここ2～3年はマルチメディアに取り組む産業構造や個人のライフスタイルの中におけるマルチメディア活用度合や方法が大きく変わり続けております。

マルチメディアの中で音・音楽は重要な要素であり、この進歩発展を受け持つ「社団法人音楽電子事業協会」の役割は非常に重要で、コンシューマからの期待も大きく、デジタル・マルチメディアの新しい製品・機器活用・音楽の楽しみ方等々に関する最新情報が欲求されて居ります。

97年は「日本楽器フェア協会」の「'97年楽器フェア」の1部スペースを譲り受け、同日、同一会場（スペースコマの場所は別建独立場所）にて併催の形で、社団法人音楽電子事業協会主催の「MIDI WORLD 97」を開催する事になりました。音楽好きのコンシューマが、約10万人動員されると予測されます。

マルチメディア時代の中で音楽電子事業の新たなムーブメントを作り上げる様な、MIDI規格と関連システム・ソフトの普及・促進、そして生活を楽しく豊かにするデジタル環境の提案を目的に、「音楽とコンピュータとネットワーク」というテーマを掲げ開催致します。

開催の骨子

- (1) 名称：「MIDI WORLD 97」（音楽とコンピュータとネットワーク）
- (2) 開催日時：平成9年10月23日（木）～26日（日）の4日間
- (3) 場所：池袋サンシャイン・シティ
「ワールド・インポートマート4F 展示場A-1」（面積1568m²）
- (4) 主催：社団法人音楽電子事業協会
- (5) 後援（予定）：通商産業省、日本経済新聞社、日本楽器フェア協会
協賛（予定）：マルチメディア・音楽・コンピューター等の関連団体
- (6) 併催：「楽器フェア97」が同日、同一会場にて開催されます。
- (7) 来場対象：コンシューマ、楽器・コンピュータ流通関係者、デジタルエンターテインメント関連産業関係者等
- (8) 広報PR：「'97楽器フェア」と共同作業 新聞・雑誌・ラジオ・チラシ・出展社案内等
「MIDI WORLD 97」独自の宣材 ポスター・チラシ・催事案内等
- (9) 企画（予定）：セミナー・コンサート等の企画
- (10) 動員：入場券は「楽器フェア」と「MIDI WORLD 97」と共通
- (11) 今後のスケジュール：
 - 出展社応募締切 4月末日
 - 出展社説明会（1回目） 6月予定

出展予定社

アップルコンピュータ（株）	東京通信機工業（株）
（有）インターネット	日本アイ・ビー・エム（株）
エディロール（株）	日本データパシフィック（株）
エンソニック・ジャパン・インコーポレイテッド	日本電気（株）
カシオ計算機（株）	松下電器産業（株）
（株）カメオインタラクティブ	（株）メディア
（株）河合楽器製作所	（株）ミュージック・シーオー・ジェーピー
（有）キュービックエナジー	ヤマハ（株）
（株）グローバル	（株）リットーミュージック
（株）コルグ	（株）リムショット
（株）シーミュージック	ローランド（株）
シャープ（株）	

社団法人音楽電子事業協会 平成8年度第2回理事会の御報告

社団法人音楽電子事業協会 平成8年度第2回理事会が、平成9年3月19日16:00より17:30迄、社団法人音楽電子事業協会旧事務局3階会議室に於て開催されました。理事総数26名中24名の出席を得（2名は委任状）、監事2名、顧問2名の出席も得ました。開会に先立ち、日吉昭夫会長のご挨拶並びにご来賓の通産省情報処理システム開発課の石川課長補佐のご挨拶を頂きました。

その後、日吉会長の議長によって下記議案の審議が進められ、決議承認されました。

又閉会に当っては梯副会長のご挨拶を頂き、終了致しました。

[第1号議案]

(注)音楽電子事業協会の平成8年度中間決算報告、平成8年度収支着地見込の報告

- 事務局より平成8年度・平成9年3月5日現在の中間決算の状況を収支計算書及び貸借対照表により一般会計、カラオケ特別会計、JIS化特別会計、イベント特別会計別に報告、引き続き平成9年3月31日の平成8年度収支決算着地見込を報告し、承認された。

[第2号議案]

(注)音楽電子事業協会平成8年度 事業報告案の承認を求める件

- 江間運営委員長より(注)音楽電子事業協会の平成8年度事業報告案が、委員会別に詳細に報告され、承認された。
- 梯理事よりMIDI規格委員会事業報告の中の②MIDI次世代対応としてはIEEE1394とUSB両方を研究する様提案があった。
- 承認された平成8年度事業報告を平成9年5月に予定されている平成9年度の通常総会に付議する事が報告された。

[第3号議案]

(注)音楽電子事業協会平成9年度 事業計画案の承認を求める件

- 江間運営委員長より(注)音楽電子事業協会の平成9年度事業計画案が提案され、承認された。
- 承認された平成9年度事業計画を平成9年5月に予定されている平成9年度の通常総会に付議する事が報告された。

[第4号議案]

マルチメディア人材育成研究委員会の発展的解消とマルチメディア推進委員会新設案の承認を求める件

- 江間運営委員長より過日開催の運営・総務合同委員会にて、マルチメディア人材育成研究委員会の役割終了による発展的解消とマルチメディア推進委員会の新設が提案され、理事会の承認を求める提案があり承認された。
- 赤松理事よりマルチメディア推進委員会新設の主旨、目的、組織、活動内容案が説明された。

[第5号議案]

(注)音楽電子事業協会 平成9年度収支予算案及び特別会計設置案の承認を求める件

- 中田専務理事より(注)音楽電子事業協会の平成9年度収支予算案及び3特別会計設置案（97フェア、JIS化、カラオケの各特別会計）が提案され、承認された。
- 承認された平成9年度収支予算案及び特別会計設置案を平成9年5月に予定されている平成9年度の通常総会に付議する事が報告された。

[第6号議案]

入会希望社の入会承認を求める件

- 下記3社の入会希望が承認された。
(株)ミュージック・シーオー・ジェーピー
(有)アイシックス、ラムズ(株)

[第7号議案]

理事交替の承認を求める件

- 村井総務委員長より5氏の新理事案が提案され、承認された。
ニフティ(株) 山本誠二氏、ビクターレジャーシステム(株) 江川順一氏、(株)コルグ 加藤孟氏、パイオニア(株)伊藤道彦氏、ヤマハ(株)和智正忠氏、
- 承認された理事交替案を平成9年5月に予定されている平成9年度の通常総会に付議する事が報告された。
(5月12日の理事会において、1名追加の新理事が提案) され承認された。(株)エクシング 久田鎮雄

[第8号議案]

専門委員会・委員長交替の承認を求める件

- 村井総務委員長より、下記、2委員会の委員長交替案と1新委員会の委員長案が提案され、承認された。
- 広報委員長：福田誠氏、業務委員長：倉谷卓幸氏、マルチメディア推進委員長：赤松憲樹氏。

[第9号議案]

(注)音楽電子事業協会の主たる事務所の移転の承認を求める件

- 中田専務理事より平成9年4月9日より下記住所に(注)音楽電子事業協会の主たる事務所を移転する案が提案され、承認された。
東京都千代田区三崎町二丁目16番9号

[第10号議案]

(注)音楽電子事業協会の平成9年度通常総会を平成9年5月中旬に開催及び付議事項の承認を求める件

- 村井総務委員長より平成9年度(注)音楽電子事業協会の通常総会の開催及び付議する事項が提案され、承認された。
- 付議事項：1、平成8年度事業報告と収支決算・期末資産の承認を求める件
2、平成9年度事業計画案と収支予算案及び3特別会計設定案の承認を求める件
3、新任理事選任の件
4、その他報告事項

[第11号議案]

MIDI商標の商品区分の一部を分割譲渡の件及びMIDI、MIDYの商標を譲り受ける件の報告

神川事務局長より、米国人の申込に対して第11類の回転電器機械、配電用又は制御用機械器具の部分についてMIDI商標を分割譲渡する事が提案された。
則ち顧問より制御用機械器具の接続器についてAMEI・MIDI活用と抵触する恐れも有り、よく調べた上で判断した方が良く意見がだされ、事務局にて再度調査する事となった。

AMEI 海外視察団

社団法人としてはじめてスタートした平成8年度AMEI事業の一つとして、MIDI規格委員会主催による、海外視察団を募集し、16名の方々の参加が得られた。

今回の海外視察目的は、米国NAMM Winter Marketの視察、十数年前からAMEIの前団体とMIDI規格の協議制定を行ってきたMMA (MIDI Manufacturers Association) 総会への参加、及びMIDI規格委員会、著作権委員会、電子音楽標準化方針委員会にてまとめてきた各種プロポーザルの検討をおこなうためのPre-meetingを開催することであった。

海外視察団に参加頂いた法人

(カシオ計算機株式会社)

(株式会社河合楽器製作所)

(株式会社コルグ)

(日本ビクター株式会社)

(ローランド株式会社)

(ヤマハ株式会社)

(早稲田大学理工学総合研究センター)

(社団法人音楽電子事業協会)

1. NAMM Winter Marketについて

1月16日より19日まで、米国カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターで「'97 NAMM International Music Market」が盛大に開催された。

開催日前日、我々視察団一行がロサンゼルス空港へ到着したときは、雨だったが、翌日の開催日より開催期間中は、

天候にも恵まれ、NAMM当局の発表では、前年出展社よりも56社増の1,106社、また入場者数も3,000人ほど増え、58,567人を記録した。

AMEI会員会社を含む日本関係の出展社も数多く、開催期間中にも、沢山の方々とお会いしたが、それぞれ各社ともまずまずの成果であったようであった。

2. MMAとのPre-meetingについて

1月18日(土)13時から、アナハイムのマリオットホテルにてAMEI/MMAのPre-meetingが開催された。

出席者はMMAからTom White (President & CEO), James Grunke (On Live Technologies), Athan Billias (IVL Multimedia Ltd.), Robert Lee (Gulbransen Inc.), Ken Bell (Richmond Sound Design Ltd.), David G.Oren (DACO Development) の6氏。

AMEIから亀山征二(株式会社河合楽器製作所)、山崎芳男(早稲田大学総合研究センター)、高氏清巳(株式会社河合楽器製作所)、飛河和生(日本ビクター株式会社)、池内順一(株式会社コルグ)、福田 誠(カシオ計算機株式会社)、藤森潤一(ヤマハ株式会社)、富田 淳(ローランド株式会社)、児島昭一(ローランド株式会社)、神川信郎(社)音楽電子事業協会事務局)の10氏
オブザーバーにヨシ・サワダ(Yamaha USA)、Mike Kent (Roland Corp.U.S.) の2氏。合計18名であった。

まずMMA Tom White会長より挨拶のあと、亀山MIDI規格委員会委員長より、この会議をセッティングして頂いたMMAへのお礼と挨拶、AMEIの活動状況説明があり、それぞれのテーマについてAMEI側より説明のあと、話し合いが始まった。各テーマと説明者及び概略は以下の通り。



① GMシステムレベル2

高氏GML2WGサブ・リーダー 持参したスペック(案)資料を基に検討。これによりGML2のコンセプトは理解して頂き、この提案にたいして今後MMAがどのように取組むのかMMA側で検討を行う。

② SMF with Lyrics

富田SMF with Lyrics WGリーダー 既に提出した提案書の修正版を提示し、その差異を説明した。この提案に関しては、もう一つ提案されているものとのConflictがあるかないかについて検討し、問題のないことを相互確認した。

③ SMFのProtection

福田プロテクト部会長 AMEIでは「電子指紋という手法」で取組むことを考えており、今後MMAと協力していきたい旨を伝え、電子指紋を生成するため「Message-Digest Algorithm」という方法の技術資料を渡し、MMAでの検討を依頼した。

④ IEEE1394

藤森氏 ヤマハ株式会社からIEEE1394のTA（トレード アソシエーション）でプレゼンテーションした資料を提示した。この会議の中でローランド株式会社からもTAに参加する意向が表明された。MMAからは何故AMEIがTAに不参加なのかの疑問が投げかけられたが、AMEIとしてIEEE1394やUSBのベーシックな部分から関連することは、大変であるので、MIDIと関連する部分で、意見を出すことを述べた。

⑤ MIDIのJIS化

山崎電子音楽標準化方針委員会委員長 もっとも目的及び意義を説明することが難しかった議題であったが、資料に基づき山崎電子音楽標準化方針委員会委員長を中心とした説明であった。この詳細については、「山崎先生のコーナー」を参照のこと。

⑥ LA-SIG

神川AMEI事務局長 MMAの中のIA-SIG（Interactive Audio SIG）グループの電子メールでやり取りされている情報について、AMEIで参加することを希望したが、IA-SIGグループ会員は、それぞれが会費を支払い運営されているので、（若干であるので）それぞれが会費を払い、各社で入会してほしい旨、回答があった。

●感想

例年出席されている亀山MIDI規格委員会委員長によると、昨年までは、各社のNAMM出張のついでに参加し、実施してきたPre-meetingであったので詳細に詰めきることが難しかったが、今回は各人が資料の事前準備など、Pre-meetingを前提に、ご参加頂いたので、より密度の濃い、またスムーズな進行であった。

3. MMAの総会について

Pre-meetingの翌日1月19日（日）7時30分のFull Breakfastから、アナハイムのマリオットホテルにてMMA総会が開催された。出席者はMMAメンバー約40名とAMEIから8名であった。

総会は、オープン セッション、クローズド セッション、ワーキンググループ、ホスピタリティ イベントの4つに分かれ、夜9時近くまで開催された。

- 会員以外の参加も可能なオープン セッションが8時30分より開催され、まずTom White会長他によるMMAの活動報告とAMEIからの提案も含めた動きが説明された。

- 会員のみ参加可能なクローズド セッションが10時から開催され、次の5件に関して、会員の可否を求め、総て可決された。なお、このセッションには、我々AMEIの出席者もオブザーバーとして、出席が認められた。

また、この他、DLS,IEEE1394,GML2等、AMEIからのNew Proposalも含め討議が行われた。

クローズド セッションで承認された内容（詳細は別途配布予定のMMA発行TSBB#21参照のこと）

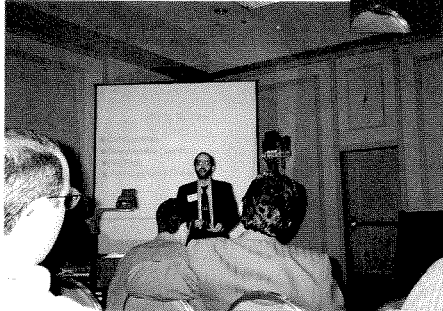
- ① Item#91 SMF Output Cable Mata Event
- ② Item#118 Responce to Data Increment/Decrement Controller
- ③ Item#132 SMF Lyrics Meta Event
- ④ Item#134 Downloadable Sounds Lebel1
- ⑤ Item#135 Output Cable Protocol

- 会員以外の参加も可能なワーキンググループ説明会が14時より開催され、Downloadable Sounds Lebel-1、IEEE1394等を始め、MMA及びIA-SIGのワーキンググループで行われている内容について、説明が行われた。

- すべての議案、提案審議等が終了した17時頃より、簡単な食事と飲物が用意され、和やかな雰囲気の中、随所に、友好的な交流・談笑が遅くまで繰り広げられた。

●感想

MMA総会は日本の一般に行われてる総会とは異なり、広いアメリカでは、普段ほとんど会うことのないMMAメンバーが、普段電子メール等で討議した事をまとめたり、今後の進め方を決定していくといった、技術的な審議事項が多くMMAでは、大事な機関である。Pre-meetingも含めAMEIとして積極的にかかわっていかなければ、前団体時代より築いてきた、AMEI/MMA対等の立場が揺らぐこととなる可能性があるようだ。



山崎教授のお話し (AMEI 活動について)

1. MIDI規格の誕生

「MIDI規格」が誕生して13年が経過した。「MIDI規格」は、国内とアメリカの数社の楽器メーカーによって1年以上の検討が行われた結果、合意を得て誕生した。この「MIDI規格」によって電子楽器の世界が飛躍的に成長したのは周知のとおりである。電子楽器の世界だけではなく、最近のパーソナルコンピュータの普及も「MIDI規格」に負うところが大きいといっても過言ではない。

「MIDI規格」は一種の通信プロトコルであるが、内容は主として楽器の演奏情報のリアルタイムでの送受に関するもので、規格だけの一人歩きでは、解釈上の違いから問題が生じることもあり、検討機関が必要になった。また、規格の中のエクスクルーシブ・メッセージのメーカーIDの管理も必要になり、1983年に(社)音楽電子事業協会の前身である「MIDI規格協議会」(英名Japan MIDI Standard Committee 略称JMISC)が発足した。以来「MIDI規格1.0詳解」の作成や、定義の追加・変更などの討議がなされ、アメリカにある、MMA(MIDI Manufacturers Association)との合意によって問題を解決してきた。

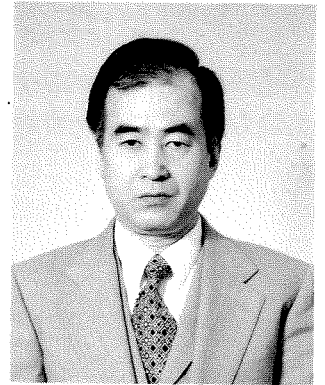
また、MIDIを使用する上でのアプリケーションに対しては、推奨案を意味するRP(Recommended Practice)と呼ばれるものを制定するなど、着実に実績を上げてきた。

その他、MIDIは音楽そのものに使用されるだけではなく、照明のコントロールや録音・録画機器などのコントロールなどにも使われるようになり、今後益々応用される範囲が広がることであろう。

MIDI規格は、その元々の役割であった電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽用のソフトウェア、コンピュータネットワークでやり取りされる音楽データの共通規格として、また、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっており、我が国におけるその管理・推進は社団法人音楽電子事業協会が一元的に行い、マルチメディアの重要な規格として活用されている。

ここまで普及したMIDI規格ではあるが元来民間事業者の取り決めに基づくものであり、規格としては必ずしも明確でない面もある。

将来のマルチメディアの健全な新興を図っていくためには、MIDI規格の健全な普及を推進すべく日本工業標準規格、国際標準規格等の公的標準化を行う等の施策を実施するための体制整備が急務となっている。電子音楽分野における標準化を着実に推進していく目的で、1996年5月、電子音楽標準化方針委員会(委員長 山崎芳男)が設置された。



2. 委員会の活動

2. 1 委員会の構成

委員会は電子音楽標準化方針委員会(山崎芳男委員長、委員14名)、標準化インターフェース部会(小池正彦主査、部会員8名)と標準化プロトコル部会(高氏清己主査、部会員10名)からなる。

2. 2 活動内容

「高度情報通信社会促進に向けた基本方針(平成7年2月)」、「第8次工業標準化推進長期計画(平成8年)」等を受け、電子音楽分野における標準化を着実に推進していくために、次の研究・調査を進めている。

①標準化方針の検討調査

電子音楽分野における現状の調査を踏まえて、標準化の方針を検討する。

②JIS原案の作成調査

日本国内における業界規格(MIDI)を元にして、関連する公的規格、民間規格との整理を含め、国際提案を視野に入れたJIS原案を検討する。

・電子楽器、コンピュータ付属機器間の相互接続

・電子楽器、コンピュータ付属機器間プロトコル及びメッセージ

③共通技術基盤の検討調査

電子音楽分野における今後の技術進歩・技術革新に向けて、関係者の共通認識となる技術基盤の確立を検討する。

今年度は5回の委員会と合同作業部会が7回開かれ、工業技術院須崎琢也氏の多大なご協力もあり大変活発なJIS原案の作成作業が続けられた。

平成9年度も引続きJIS化を目指して作業が続けられる予定である。

3. MMAとの懇談

1997年1月にアメリカロスアンゼルスのアナハイムで開かれたナムショーの際MMAメンバーと懇談をおこなった。参加メンバーはMMAからTom White会長を含め6名、AMEIから10名、オブザーバー2名の計18名であった。

会議の内容は、他の委員会からの提案等7つの議題があったが、MIDIのJIS化については山崎委員長が全体の概要説明をし、神川事務局長から経過報告があり、その後JIS化の必要性、作成作業、メンテナンス等について盛んな意見交換が行われた。

その後、場所をディズニーランドホテル内日本食堂「大和」に移し、夕食を共にした。会談では様々な論議がありときには必ずしも方向を一にしないものもあったが、MMAのメンバーとAMEIのメンバーが一同に会し懇談することにより得られたヒューマンリレーションシップは今後のMIDI発展に必ず貢献するものと思われる。

AMEI 版・マルチメディア・テキスト 音楽、音響編 97

このテキストはマルチメディア製作者を対象に音楽・音響の技術の広範な分野を初歩的なものからより高度なものまで、実践を通して無理なく修得できるよう解説しています。テキストは、ハイブリッド仕様の CD-ROM で、初級編と上級編に分かれ、大変基本的な部分から実際の製作に必要な情報、最先端の情報まで幅広く含んでおり、今までのテキストでは文章で表現できなかった部分も CD-ROM を使う事により、容易に理解できるよう構成されています。

● テキストの特徴

1. HTML言語で書かれています。ネットスケープやエクスプローラーといったブラウザソフトによってプラットフォームに関わらず読むことができます。
2. 豊富な図版が収録されています。文章だけでなくキャプチャリングされたコンピュータ画面や図解によって分かりやすい内容になっています。
3. HTMLの特長を活かし、知りたい項目へすぐに飛ぶこともできます。用語集としても活用できます。
4. 執筆者は初級編は尚美学園の専任講師、上級編は各分野で実際にマルチメディア制作に携わっているエキスパートです。
5. オーディオトラックには様々な音の例が収録されています。
6. ハイブリッド仕様のCD-ROMです。
7. バージョンアップにより最新の情報に更新されます。

● 制作・著作

社団法人音楽電子事業協会マルチメディア推進委員会（委員長 赤松憲樹）

● 監修・編集

古山俊一（スタジオエレフォン 代表）

● 執筆者

○ 初級編

飯島俊成（東京コンセルヴァトアール尚美 助教授）
定平誠（尚美学園短期大学 専任講師）
竹内誠（尚美学園短期大学 専任講師）
坪口昌恭（尚美学園短期大学 専任講師）
鶴原勇夫（尚美学園短期大学 助教授）
新田雅道（尚美学園短期大学 専任講師）
野瀬充弘（東京コンセルヴァトアール尚美 専任講師）
萩原成（東京コンセルヴァトアール尚美 専任講師）

○ 上級編

大庭さち子（キッズスペース プロデューサー）
高棟雄輔（NECインターチャネル株式会社 グループプロデューサー）
飛河和生（日本ビクター株式会社 マルチメディア事業戦略本部 技術）
富田哲郎（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント生産技術本部 録音部課長）
赤松正行（岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー 助教授）
古山俊一（スタジオエレフォン 代表）

● ソフトテキストの目次：

[初級編]

第1章 マルチメディアってなんだ？

- メディアとは
- メディアの融合 今・昔
- マルチメディアのキーワード
- マルチメディアと媒体

第2章 マルチメディア環境

- マルチメディアを楽しむ
- マルチメディア環境整備
- マルチメディアを創る

第3章 Music

On MultiMedia

- コンピュータと音楽
- シーケンサー
- デジタルオーディオ ○ミキシング
- MIDIとデジタルオーディオの併用

第4章 シーケンスデータの作り方

- シーケンスデータ制作の流れと各行程の意味
- ちょっと洒落た音楽表現テキストの目次

[上級編]

第1章 音響・音楽の制作環境

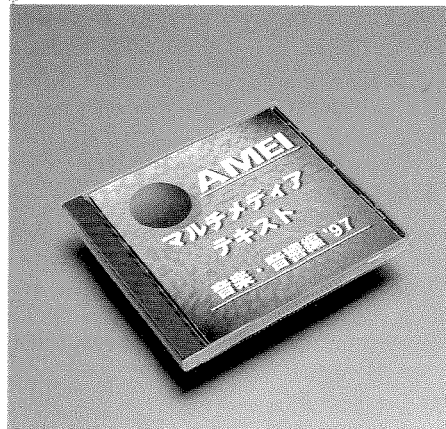
- MIDIの概要・MIDIメッセージ・コンピュータとMIDI・MIDIファイルの規格・MIDI音源の規格
- デジタルオーディオ制作・デジタルサウンド概論・デジタルサウンド機器
- 音源・音源方式・音源の形状・ソフトシンセサイザー・音源カード

第2章 音響・音楽の制作過程

- プリプロダクション・PCでのMIDIデータ再生/サウンドファイル再生・音楽素材と著作権・制作計画・映像と楽曲を同期させる為の基礎知識・デジタルコンテンツ向けの作曲・シーケンスデータ制作・打ち込み後のサウンドプロセッシング・ミックスダウン・マスタリング・動画に同期した楽曲の制作・シーケンサ以外のMIDIツール
- キャプチャリング・デジタルオーディオのキャプチャリング
- サウンドエディット・波形編集・ハードディスクレコーディングでの編集・サウンドエフェクト・ファイルフォーマットの変換
- MIDIデータの加工・SMFの概要と背景・SMFのフォーマット・チャンクの構成・MIDIイベントの表現・SMFの応用・今後の方向・SMFの編集

第3章 コラボレーション

- オーサリング・音声データの前処理・デジタルムービーの制作概要・デジタルムービーの編集の例・オーサリングツールでの音声の扱い・まとめ
- プレビュー・動作環境・動作確認機材の選定・動作確認の方法・まとめ
- CD-ROMプリマスタリング・CD-ROMの基礎知識・マルチメディアCD・CD-Recordable・マルチメディアスタジオ・Macintosh HF CD・ISO 9660 CD・Mac/ISO HybridCD・CD EXTRA CD
- パッケージ形態での活用・MPEG環境での活用 [MPEG1]・MPEG環境での活用 [MPEG2]・複合型CDの活用
- ネットワーク上での活用・コンピュータネットワーク・インターネット概要・情報発信準備・デザインと素材・構築・サイト制作1・サイト制作2・サイト制作3・サイト制作4・サイト制作5



※頒布価格

○一般頒布価格

¥ 5, 0 0 0

○AMEI 会員頒布価格

¥ 4, 0 0 0

※ご注文お申込先

(社) 音楽電子事業協会事務局

中田, 神川

TEL 03 - 5226 - 8550

FAX 03 - 5226 - 8549

(社) 音楽電子事業協会事務所が 移転になりました



●イトービル外観

グレーのタイル貼り6階建てのビルです。

(ブルーのビルの隣です。)

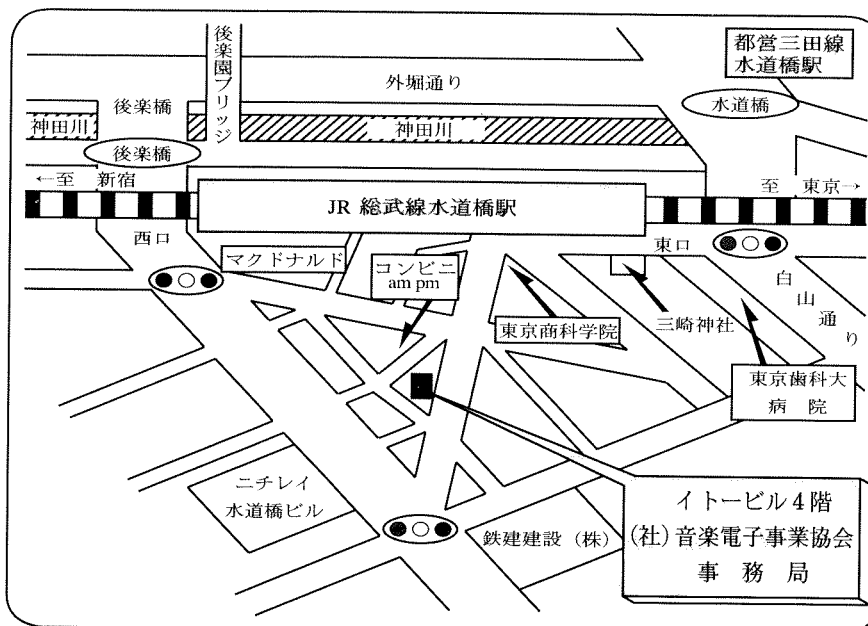


●会議室

最大24名収容の会議室です。この他にも5～6名の会議には応接室が利用できます。



●エントランス



社団法人 音楽電子事業協会事務局

住 所

〒101 東京都千代田区三崎町 2-16-9
イトービル 4F
TEL:03-5226-8550 FAX:03-5226-8549

交通アクセス

[JR]

・総武線「水道橋」東口・西口
より徒歩2分

[地下鉄]

・都営新宿線 「神保町」
営団半蔵門線 「神保町」
A2出口 徒歩7分
・都営新宿線 「九段下」
営団半蔵門線 「九段下」
5番出口 徒歩10分
・都営三田線 「水道橋」 徒歩10分

AMEI 会員名簿

(五十音順)

あ

株式会社アイ・オー・データ機器
有限会社アイシックス
株式会社アイデックス
赤井電機株式会社
アカソフト
株式会社アスキー
アスキーネット株式会社
アップルコンピュータ株式会社
株式会社アッポサウンド

い

株式会社石橋楽器店
有限会社インターネット

え

株式会社エクシング
エディロール株式会社

お

株式会社大阪村上楽器
株式会社大阪有線放送社
株式会社音響総合研究所

か

株式会社楽販大阪
カシオ計算機株式会社
株式会社カミヤスタジオ
株式会社カメオインタラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所
株式会社神田商会

き

ギガネットワークス株式会社
株式会社キュービジョン
有限会社キュービックエナジー
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

コナミ株式会社
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サウンドクラフト
株式会社サンワード

し

株式会社シーティーエー

株式会社シーミュージック
島村楽器株式会社
シャープ株式会社
株式会社ジャストシステム
株式会社ジャパンインスツルメント
学校法人 尚美学園

す

株式会社ズーム
株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコー電子株式会社
株式会社セガ・エンタープライズ

そ

ソニー株式会社

た

株式会社タイカン
株式会社第一興商
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タイムウェア
株式会社タムラ製作所

ち

ティブック株式会社
TDK株式会社
株式会社電波新聞社

と

東映ビデオ株式会社
東京サウンド株式会社
東京通信機工業株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社友ミュージック

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本コロムビア株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社

は

パイオニア株式会社

ひ

ビクターテクニクスミュージック株式会社
ビクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社ブライトインターナショナル
株式会社プリマ楽器

へ

ベスタクス株式会社

ま

マスターネット株式会社
松下通信工業株式会社
松下電工株式会社
松下電器産業株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージックネットワーク
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ
ラムズ株式会社

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ

〈会員会社 95 社〉

〈賛助会員〉
株式会社アンディーズミュージック
株式会社音楽之友社
株式会社ミュージックトレード
有限会社ミュレイディア
株式会社ヤスダコーポレーション
株式会社ラプラス

AMEI NEWS Vol.4 / 1997.5.31

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101 東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル4F

TEL: 03-5226-8550 FAX: 03-5226-8549

発行人：中田 健

編集人：福田 誠 (広報委員会)

編集協力：株式会社 ラプラス